

INFORMATION

井桁裕子 個展

2020 年 9 月 5 日 (土) ～ 9 月 20 日 (日)
Galerie LIBRAIRIE6 (リブラリエ・シス)
〒 150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 1-12-2 南ビル 3F
Tel : 03-6452-3345
Mail : info@librairie6.com
Open 12 時～ 19 時 (日 / 祝～ 18 時) Closed 月曜日 / 火曜日 (月・火が祝日に当たる場合も休廊)
焼き物の小品のみの展覧会です。
シスならではの幻想的な展示空間をお楽しみいただけたらと思います。

ロシアとチェコ 海外展示参加・見学者募集

羽関オフィスでは魅力的なモスクワとプラハの人形展の主催者に協力して出品のお手伝いをするになりました。ロシア方面に強いユーラスツアーズの協力で、ツアーのご案内もいたします。
出品は無審査です。(定数が埋まり次第メ切)
※出品、ツアーともにコロナウィルスの影響のため、変更もあり得ることを予めご了承ください。

チェコ「ドール・プラハ」

会期 2020 年 11 月 6 日 (金) ～ 8 日 (日) 3 日間
会場 ルツェルナ宮殿 (プラハのシャンゼリゼと言われるヴァーツラフ広場そば)
モスクワ「ART OF DOLL」
会場 ゴスチヌイ・ドゥヴォー (赤の広場が目の前にあるソ連時代の貴賓客向施設)
会期 2020 年 12 月 11 日 (金) ～ 13 日 (日) 3 日間
※出品お申込は羽関オフィスで、ツアーお申込はユーラスツアーズが承ります。

ご相談・お申込窓口

出品の方 羽関オフィス Email hazeki@nonc.jp
住所・TEL はチーム・コヤール事務局と同じ。
ツアー参加の方 ユーラスツアーズ 担当：須玉
※お問い合わせの際は「人形展ツアー」とお伝えください。
〒 108-0014 東京都港区芝 5-13-18 いちご三田ビル 9 階
TEL 03-6453-6632 Email tisha@euras.co.jp

コヤール・クラブ入会条件

入会金なし 年会費 2000 円 (更新時に 2 年分一括払いの方は 3900 円になります。) 年 4 回、チーム・コヤールのニュースレター「KOYAALA 通信」が届きます。
KOYAALA 通信発行時期 1 月 1 日、3 月 1 日、6 月 1 日、12 月 1 日

お申込方法

ゆうちょ銀行の振替口座に年会費 2000 円をご送金ください。
口座名 チーム・コヤール
ゆうちょ銀行から 00140-7-358370
他銀行から 〇一九店 (ゼロイチキユウ店) 0358370
※電信送金の方は「〒番号・住所・お名前 (本名)・電話番号」もあわせてお知らせ下さい。
・ご入金が確認ができたなら、チーム・コヤール事務局から最新号と受領証を兼ねた会員証をお送りいたします。次号の発行が直近の場合は、翌号からお送りいたします。
・更新時には、有効期限となる号に更新のお知らせと振替伝票を同封してお知らせいたします。

『craft art DOLL 2020』 2020 年 7 月発行

クラフトアート人形コンクール実行委員会・編
A5 判 192 ページ 3200 円＋税
ISBN 978-4-908164-08-8
発行 マリアパブリケーションズ
◆特集
① interview 美術家・富田菜摘／素材に「いのち」を吹き込み、再生させる
②人形づくりはひとづくり／大竹 京
③オンライン FANTANIMA! の挑戦～コロナパニックがもたらした変化～／羽関チエコ
④ブックレビュー／書肆アラビク 今井彩香・森内憲
◆人形作家グラビア (約 100 名)
◆クラフトアート人形マッチングコンクールから実現した展覧会

メンバー動向

長いあいだ、チーム・コヤールの一員として活動を支えてくれたクサボンさんが、6 月でチーム・コヤールを退会します。長いあいだ、ありがとうございました。

——本来なら、6 月の DWF 人形コンテストで直接皆様にお会いして、ご挨拶したかったのですが叶わず大変残念です。コヤール通信のコラム連載も今回が最後になってしまいました。今まで大変お世話になりました。
展示会では、様々な作家の方や作品に出会い学ぶことが出来ました。コヤールメンバーとして活動させて頂けたこと、会員のみなさんにお会い出来たこと、感謝の気持ちでいっぱいです。
なんだか、やはり直接お会いしてないと実感がなくて、また来年でもコロナが収束しましたら、イベントの時にでもご挨拶に伺えたらと思っています。
まだ、世の中の状況と自分自身も予定が立てられない状況なので、どうなるのかわかりませんが。
世の中まだまだ息を抜けない日々が続きそうですが、みなさんも、どうかお身体にお気をつけ下さい。また、きっと笑顔でお会いできる日を楽しみにしています。

クサボンより

DM 同封希望の方へ (次の発行日から 3 ヶ月の間に展覧会を予定されている方)
事務局に枚数とメ切をお問い合わせのうえ、発行日の 10 日前までにお送り下さい。発行後に請求書をお送りします。
同封料金 コヤール・クラブ会員 2000 円 一般 (非会員) 3000 円

個人情報について

お預かりしている個人情報はチーム・コヤールの事務局業務を担当する羽関オフィスが厳重に管理いたします。名簿は「KOYAALA 通信」発送に使用させていただく他、チーム・コヤールの趣旨に沿って有意義と判断した情報を伝達する以外には一切使用しません。チーム・コヤール以外の第三者が閲覧・使用することはありません。

チーム・コヤール事務局
189-0003 東京都東村山市久米川町 3-27-57 羽関オフィス内
TEL 042-395-7547 (担当 はぜき)
URL <http://koyaala.jp> Email team_koyaala@yahoo.co.jp
KOYAALA 通信 編集責任者 羽関チエコ
© KOYAALA TSUSHIN 2020, printed in Japan 本地記載の記事・画像の無断使用・転載を禁じます。

KOYAALA 通信は、チーム・コヤールがコヤール・クラブ会員に発行するニュース・レターです。発行日 3 月 1 日、6 月 1 日、9 月 1 日、12 月 1 日

2020 年春、コロナ渦到来

KOYAALA 通信前号では、DWF コヤール人形コンテスト、FANTANIMA!2020、ドーム映像作品「DOUBLE」の案内をお知らせしていました。通信を発行した 3 月 1 日の時点で、そのどれもが中止になるとは思っていませんでした。
2020 年の世界の予定を大きく塗り替えたコロナウィルスの影響を戦争にも例える人がいます。コロナ渦が物理的に、メンタルに及ぼした影響とは誰もが無関係でいられないと思います。今回の「KOYAALA 通信」は、この非日常的な数カ月を通して人形作家の方、関係者の方それぞれが感じられたことを伺いました。

人形作家編

■矢部藤子

Q1 外出自粛期間をどう過ごしていましたか？

基本的に展示会以外は家で製作活動しているので通常と変わらない生活でしたが、数少ない外出の予定はことごとく中止になり人と会う機会はほぼ皆無でした。いつもなら突然訪ねてくる近所の人とのんびりお茶をすることもありますが、緊急事態宣言直後はこの呑気な田舎町 (注：茨城県石岡市郊外) さえ危機意識を持って外出自粛する人がほとんどで、一時は人類が消滅したのかと思うほどの静けさになりました。

私の作業は普段通りで特にストレスも感じず、それどころか人に会わない気楽さで毎日思い切り朝寝し、どんどん自堕落になり、そこから抜け出す自信がないことが今の個人的な危機感です。そんな気まますぎる暮らしと運動不足のツケなのか、家の中のささいな事故で右足アキレス腱が断裂し、緊急事態解除の直前になって生まれて初めてのギブスをつけられ、完治までステイホーム延長という事態になりました。



Q2 コロナウィルスが、自分の生活や考え方にもたらした変化があれば教えてください。

展示会やイベントが次々と中止や延期になりましたが、中にはその決断を私自身がしなければなら

出すこと以上にそのタイミングに苦慮しました。現実的には中止せざるをえない状況だと誰もがわかっていても、あまりに早すぎる決断は絶望感を増幅させそうだし、遅すぎれば関係者に迷惑がかかります。自分のモチベーションもすでに減退していることを自覚しているのにぐずぐずと答えを出し渋って、ようやく延期を決断した時には、重荷を下ろしたような開放感がありました。今回のコロナ禍の中で多くの人が同様の体験をしたことと思いますが、「こんな時だからこそ」という明るくポジティブな考え方に水を射すくらいなら、無言のままこっそりここから立ち去って二度とこの人たちと関わらずに生きていこうとまで考えた瞬間もありました。しかし、いわゆる「同調圧力」というのは案外あっさり減圧するものでした。というよりも、それを圧力と感じていたのは私だけだったのかもしれない。怖気付かずに自分の意見を言うということは、相手を信頼するということでもあるのだと知りました。

Q3 コロナウィルスが、社会にもたらす変化があるとすれば何でしょう？

いかに不要不急にまみれていたかを思い知らされた今、良くも悪くも「無駄」が排除され整理されてゆくでしょう。同時に、自分にとっての「価値」を見極める目が育ちそうな気がします。

Q4 展示や制作に影響したことはありますか？

中止や延期はあったものの、よく考えてみると自分自身への影響はあまりないように感じます。現実には収入減ですが、精神的にはダメージは受けていません。影響が出るのはこれからなのでしょうが。

画像について
私の親戚が一族の歴史を一冊の本にまとめて自費出版することになり、表紙に私の人形を使いたいとのこととで、祖父母をイメージして製作しているものです。当初は何か手持ちの過去作品を適当に使うつもりでしたが、コロナで時間的余裕ができたことでゆっくり新作に取り組むことができました。
ちなみに私の曾祖父が大正時代に徳島県から北海道へ開拓民として移住し、今年でちょうど 100 年になるそうです。当時の北海道の様子や社会情勢、一族の意外な歴史など、従兄弟たちと協力して調べているうちに、すっかりタイムスリップした気分で大正から昭和の空気に浸っていたこの数カ月です。

- Q1** 外出自粛期間をどう過ごして（営業して）いましたか？
- Q2** コロナウィルスが、自分の生活（ビジネス）や考え方にもたらした変化があれば教えてください。
- Q3** コロナウィルスが、社会にもたらす変化があるとすれば何でしょう？
- Q4** 展示や制作、ビジネスに影響したことはありますか？
- Q5.** その他なんでも

■高橋操

- Q1** 家に引きこもり、仕事を少し片づけ、人形制作。他にすることもないのでそこそこ仕事は進みました。
- Q2** あまり考える方ではないのですが、自分の生活で何が必要かを考える良い機会になっています。
- Q3** 経済的なこともあります。人との付き合い方もすぐ元のようには戻れないのかなと思っています。
- Q4** 他の方と同じように人形教室は休校、展示会は延期となりました。
- Q5** 人形を作るということは家で自粛していてもあまり不都合なことはないのですが、社会から隔離されている感があります。FacebookやInstagramで「勝手に人形展」と称して以前の作品を1日1点づつ発信して、生活に変化をつけています。
- 画像：「綱引き」は展示が延期になり待機中の作品です。



■山口景子

- Q1** 普段から、自宅にすることが、当たり前前の生活です。テレビ、食事、制作、酒の日々でした。
- Q2** コロナウィルスで、予定していた旅行は、もちろんキャンセル。人形のついては、教室していないし、人との交流が、ほぼないので、今のところ、影響は、感じてないです。
- Q3** 世界中が、あっという間に、こんなになってしまう恐怖。ビジネスの世界、当たり前が当たり前でなくなる事は確か、考える時期なのだと思います。
- Q4** 制作については、出来る事を、コツコツするだけです。
- Q5** 高齢者なんだと、改め、自覚。幸い、生活は出来るので、クヨクヨしないで気を付けて過ごします。

■ユニバーサルプーヤン

- Q1** 元々、夫婦でフリーランスで自宅で仕事をしているので、仕事のスタイルはそれほど変えずに済みましたが、打ち合わせも出来なくなったので、進めていた企画や、やろうとしていた事が一切出来なくなってしまいました。
- Q2** 家に居るのは苦ではないのですが、週に2,3回行っていたジムがやっていないので、どんどん体調がおかしくなっています。
- Q3** 天候や地震などによる大規模な被害が多くありましたが、今

回のウィルスによる被害も、今後の生活にかなり影響すると思います。

- Q4** ご自身の展示や制作に影響したことはありますか？
- ドールショウや、チーム・コヤーラのイベントも中止になってしまいました。進行中だった企画はほとんど止まってしまい、打ち合わせも出来ませんし、再開出来るかどうか分からない感じです。材料を買いに行く事も出来ないのが、とても不便です。

■よねやまりゅう

- Q1** 普段と変わらず、工房で制作してました、
- Q2** 人類への警告、天からの啓示だと思います。創造出来ない物への無力さを感じます。それでも色々な事と戦って行かなければ成りません。努力も必要ですが、運にも左右されますよね。
- Q3** 近未来、デジタル化やRPA化(ロボティック)が進み、生身の人間の接触が少なく成る時代が来るかもしれません。個人差が有りますが、世界的に経済的な困窮、サバイバルな時代が来るかも知れません。
- Q4** イベント、展示が無くなり仕事もキャンセル多く、造型関係は不安定です。
- Q5** コロナウィルスに限らず、これからも色々なアクシデントに遭遇するでしょう、人類はそれを乗り越えていずれ滅亡します。個人的には残り少ない人生終着駅に暴走列車は走り続けています。

■つじとしゆき（月光社）

- Q1** 来年の個展に向けての作品の制作 資料集め 論稿の執筆
- Q2** アマビエや官房長官のマスクなど日本人の呪術に対する感受性に改めて感心しました。
- Q3** 今回のことで国家間の保護主義が進んで芸術の国際化に悪影響が出ないか？心配しています。
- Q4** 影響はないのですが展示を見に行けないのが辛いですね。
- Q5** 最近平田郷陽以外の創作人形について調べてました。当時ロシアにあった農民芸術運動に影響を受けた山本鼎という人が日本で同様の大衆芸術運動をしていたこと。親交のあった工芸家の藤井達吉が主婦の友社と手芸のコンテストを行っていたことなども現在に至る創作人形の歴史に関わりがありそうな感じでした。丁度当時もスペイン風邪の流行と時を同じくしておりどんな関わりを見出せるのか現在進行形の問題として考察を続けていくつもりです。
- 画像：自粛中に盛り上がったアマビエを作ってみました。赤くしたのは古来より魔除けに使われるベンガラによっています。



■井桁裕子

- Q1** 暇になった（？）友人たちが私の存在を突然思い出してお手紙やeメールなどをくれました。
- Zoomなどで、遠くの友達とも顔を見ながら話せるようになり嬉しいです。
- Q2** 自分自身にはまだ変化がないようです。
- Q3** 国を問わず言えるのは、社会の矛盾、脆弱な部分が明らかになったことだと思います。国内では、これまでの福祉予算切り捨てによって保健所や公立の病院・高齢者施設が手薄になっていたことが明らかになりました。
- また、政治の劣化ぶりを身の危険とともに見せつけられる日々だと思います。コロナ対策のケチっぷりで経済はリーマンショック以上の打撃と言われています。その一方、F35戦闘機の爆買いなどは止めず狂気の沙汰の無駄遣い。学生や子どもたち、教育機関の被害もかなりのもので、将来への影響が心配です。
- コロナに教えられた社会の矛盾を直視して、人間の目線で積極的に変化を求めたいです。
- Q4** 参加した映像作品がイベント中止で未発表になってしまいました。今後も海外との交流が厳しい状況が続くことを心配しています。

関係者編

■高野明子（クラフトアート人形コンクール実行委員会）

- Q1** たまたまイベントの端境期で、出版の仕事の期間にあたっていたので、在宅で仕事していました。これまでゆっくり検討できなかったことなど考えています。
- Q2** クラウドを使った仕事などは以前から取り組んでいたので、仕事の仕方自体に大きな影響はありませんでしたが、イベントごとなど、人を多人数集めて成立する仕事については根本から考え直す必要があるんだと思いました。ただ、やはりライブなどの良さは何物をもってもかえがたいという認識に変わりはない（むしろ強くなった）ので、仮想現実と現実をどう組み合わせるのか、うまくすれば以前よりも色々良くなるのではと思っています。
- たとえば、コンサートや演劇も私は大好きですが、チケットが取れない、遠方でいけないことなどありましたが今回配信で色々楽しむことができました。
- Q3** 危機管理の重要性を多くの人が認識することによって、より柔軟な社会になってほしいです。多くの業種で、「絶対大丈夫」なプランがなくなり、「プランB」を用意する人が増えると思います。その大変さも知っている人が増えることで寛容な社会になってほしいですが、実際には方向転換を責める人や、逆に対策を講じない人への非難なども生じるのかもしれませんが。あとは政治の大切さもだいが人々に認識されるようになったんじゃないかなと。
- Q4** オンラインは避けて通れないことが分かったので、あとはそれを仕方がなくやるのではなくてどう面白く使えるかが問われるんだろうなと思っています。
- Q5** こういう時に助け合えるコミュニティに所属していることも大事なんだなあと感じました。組織というものは好きではないですが、ゆるくつながりながら常にお互いの利益になろうとするような、自分の周りの小さな社会を選び取り、育てたいと、いつもに増して考えさせられました。人とのつながりはありがたいですね。

■藤林美保（乙女屋）

- Q1** オンライン営業したものと、延期にした展覧会もあります。その時の時節や展示のコンセプトを鑑みて、各展示の関係者と相談して臨機応変にしました。物流への負担を最小限にすべきと気がかりでしたので、販促活動等は最小限に留めました。プライベートの外出は必要最低限にしました。
- Q2** 小売店の基本である「もっとたくさん、もっと広く売る」という平常時の正解は、自分にとってストレスだったことを認識しました。（うすうす感じ

- Q5** ニューヨークから、すさまじい死者とロックダウンの様子などが伝えられました。しかしアジアではそこまでの死者数の過酷さは見られず、最近の研究では「武漢は別として、日本も含めてすでに似たようなウィルスによって免疫があったのでは？」という説も出てきました。人類は発生からこれまでウィルスで滅亡したことはありません。危険な病気ですが、インフルエンザと同じくいずれ共存できるものだと考えています。
- ニューヨークに学ぶべきことは、黒人やヒスパニックなどの貧困層にウィルスが蔓延する事態です。新自由主義による経済格差がパンデミックの規模を大きくしてしまったのです。
- 画像：コロナ引きこもり中の作品「静かに生きている」、まだ本焼き前のものですが、お送りします。9月の個展に出す予定です。



- ていましたが、実感が大きかった）では、どのようなスタンスを取るのか、の課題を考えなければならないのですが、まだ明確にどう変わるか見えていません。
- Q3** 政治の話を日常でもSNSでも、よく話すようになりました。政治の話はタブーとされてきましたが、興味を持つ人が増え、さまざまな意見に触れる機会は、いいことだと思います。いろんな意見に触れることで、自分の考えを持つ人が増えてくるでしょうか？
- Q4** お店を労ってくださる方が多く、ありがたかったです。

■森内憲（書肆・珈琲舎アラビク）

- Q1** 自営業でスタッフもおらず、徒歩圏内の通勤なので毎日出勤していた。カフェ＋ギャラリーの接客業だが接客ができないので、通販業務と事務仕事（書類のファイリングなど）をしていた。
- Q2** 接客がなくなったことでストレスは減ったが、収入が途絶えた。今後、通販の需要を拡大できればいいが、通販メインというのは面白くないと思った。良くも悪くもネット通販のプレゼンテーションは変化していくと思う。
- Q3** ミクロの視点では、小売店舗にとって店舗を維持することで得られるコストとベネフィットのバランスは変化し、今までよりもコストの方が高くなっていくだろう。マクロ経済的には、コロナ禍の被害が比較的少ないアジア圏は欧米に比べて経済的に安定している分、通貨高となるだろうから、輸出に依存し、内需の乏しい韓国経済は苦境に立たされる。中国は輸出経済から内需へのシフトに進み、経済面での国際的地位を高める。日本は現在緊縮財政＋円高のまま進むと、経済的な停滞は数十年続き、長期的には中国経済圏に組み込まれる。韓国の倍の人口を生かして内需の拡大を進めるべきだが、現場の努力でどうすることもできない部分なので、政策に期待するしかない。
- Q4** ビジネス的には大打撃。人形などは直接見た雰囲気と、それを言語化するお店のプレゼンテーションが売上に直結するので、来客がないのは今後も不安。喫茶店や劇場など、来客時間にムラがある業態は「ピーク時に満員になることを前提とした店づくり」をしていると思うので、このスタイルではお店が維持できなくなると思う。
- Q5** 個人事業主が今は苦境で、お客様が「応援買い」をしてくださっていると感じ、感謝していますが、コロナ不況が長引けば、サラリーマン世帯なども給与が下がり、今までのような買い物を楽しめる状況ではなくなると思うので不安です。